

2019年度草木染塾 リピーター講座 第3回

【タイトル】2019年度 草木染塾 リピーター講座 第3回

【実施日】2019年2月3日(月)

【場所】黒川青少年野外センター

【実施概要】常緑樹から赤の色を引き出す(ソヨゴ・ビワ)

【主催】FIT 草木染め塾

【講師】奥村具子 助講師:中野修平、矢吹佳枝(敬称略)

【受講者】入江克昌、臼井治子、廣川妙子、松田貴子

常緑樹の葉から、赤を発色させるための工夫を学びました。

<染材>ソヨゴ(生葉)、ビワ(生葉)(各々15g/水1L)

<染める布>スカーフ(シルク・レーヨン)

<手順>

- ・葉を揉みちぎり、しばらく置く →葉が傷ついた箇所から酵素が働き、発色がよくなる
- ・水から煮出し、染液を作る
- ・染液をバケツ返し(容器から容器に入れ替える)し、酸化を促す →酸化により赤味が増す
- ・高温で浸し染め →媒染(ミョウバン・鉄) →更に染液に浸して染める
- ・お湯で洗う →黄味が抜け、赤味が残る

ソヨゴもビワも濃い緑の葉の常緑樹ですが、ビワはビワの実のような橙色に、ソヨゴは落ち着いた紅色に、染める素材(シルク・レーヨン)により色味は変わるものの、各々美しい色に染まりました。深い緑色の葉のどこにそんな色素が潜んでいるのかと驚かされます。

発色のよくない染材でも、揉んだり樹皮を剥がしたりして傷つけることで、酵素が働き、別な発色をすることがあるようです。ソヨゴの葉は傷ついた箇所から次第に茶色に変色していきました。

防衛反応で化学変化をして、それが新たな色素を引き出すのかもしれない。

それならタラヨウは?ヤマモモは?カシは?シキミは?・・・いやいや有毒だから草木染めには・・・と、話が広がりました。

また、染液を空気に触れさせることで、酸化を促すと、赤系の染め液は更に赤味が強くなること、最後に水洗いをする前にお湯で洗うと、うっすらと湯に黄味が溶け出し、染め上がりの赤がクリアになるということも体験しました。

植物が秘める力は無限大。

それを引き出すために、先人達がどれほどの試行錯誤を繰り返してきたのだろうと思いを馳せながら、体験すればするほど興味は尽きません。

(報告:松田貴子)



茶色に変化したソヨゴの葉



染液を酸化させる



湯洗いで黄味を抜く



染めサンプル



ソヨゴの作品



ビワの作品